

ディーラーの独り言（2018年1月12日）

◆本日の予想レンジ

ドル円 110.90～111.75

豪ドル円 87.30～88.70

昨晚のニューヨーク市場では、米卸売物価指数が予想を下回ったほか、新規失業保険申請件数が4週連続で増加していることが嫌気され、米長期金利が低下。加えて米30年債の入札結果が旺盛だったことも低下の一因となりました。前日の中国の米債購入停止検討といった報道から、金利上昇に対する反応以上に金利低下には大きく反応するところを見ると、ドル安方向への見方が増しているようで、マーケットはやや下向きに行きたがっているのかもしれませんが。それでもNY連銀ダドリー総裁の先々の金融政策に自信を示した発言やNY株式市場が主要3指数揃って史上最高値を更新したことがプラスに働き、ドル円は何とか111円割れを回避した。昨日は東京時間の買戻しで一旦111円88銭まで反発したものの、結局200日移動平均線を下回ったことで改めてこの水準が戻り高値として意識されるかもしれません。ドル円のロングポジションは昨日の東京時間の上昇でいったん利食えたものの、自分の戦略がやや手堅すぎる？売買だったような思いです。昨日のニューヨーク時間の動きを見ていると、ドル円は上値が重たい状況は相変わらずで、依然として200日移動平均が意識され易いため、上下40銭のレンジで勝負です。ただ今晚米国の12月消費者物価指数や小売売上高の発表があります。結果が依然として低インフレを示す結果になる可能性もあり、要注意と思っています。来週15日は米国市場が休場となるだけに、ポジション調整の影響も出る可能性があります。

一方、昨日発表された豪州の11月小売売上高が前月比1.2%で予想0.4%を上回る好調な結果となり、豪ドル円も素直に豪ドル買い・円売りに反応しました。今週9日に発表された住宅関連の指標も好調で豪州経済の堅調さが伺え、豪ドルに関してはここから強気のポジションでいけそうです。トータルでプラスになるよう色々と目を向ける必要がありそうです。

提供：SBIリクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡

または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。